

## 平成 30 年度授業改善プランの検証

- <第 3 学年> 昨年度の結果を踏まえ、既習事項の反復練習及び家庭学習の徹底に、引き続き重点を置いて指導した。その結果、「基礎」内容の正答率が目標値を大幅に上回り、昨年と同様に一定の成果が表れたと考えられる。
- <第 2 学年> 昨年度の改善策である、既習事項の反復練習を行いつつ、記述式の問題についての対応力を向上させる指導を行った結果、「基礎」内容の正答率が目標値を大幅に上回った。しかし、記述式の問題の正答率については目標値を下回ったため、改善が必要である。

## 数学科における調査結果の分析

内容結果の分析	<第 1 学年> 全ての領域で、目標値を上回っている。特に「量と測定」領域での正答率が高い。また、解答形式では「短答」形式の正答率が高い。具体的な内容では、割合に関する問題の正答率が低かった。
	<第 2 学年> 全ての領域で、目標値を大幅に上回っている。特に「数と式」領域の正答率が高い。また、解答形式では「記述」形式の正答率が目標値を下回った。
	<第 3 学年> 全ての領域で、目標値を大幅に上回っている。特に「資料の活用」領域での正答率が高い。解答形式に関係なく、正答率が目標値を上回っている。
観点別結果の分析	<第 1 学年> 全ての観点において、目標値を上回っている。特に、「数学的な技能」の観点の正答率が高く、数量の処理等が得意である。
	<第 2 学年> 全ての観点において、目標値を大幅に上回っている。特に、「知識・理解」の観点の正答率が高く、図形の性質や式や数量が表す意味の理解が得意である。
	<第 3 学年> 全ての観点において、目標値を大幅に上回っている。特に、「数学的な技能」の観点の正答率が高く、数式や数量の処理等が得意である。

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

目標値に基づいた比較をすると、全学年に共通して、全ての観点で目標値を上回っている。今後、さらなる成績の向上を図るために、各学年の一番の苦手分野及び苦手な解答形式に重点を置き、指導する。また、現在取り組んでいる計算練習などの反復練習も引き続き取り入れ、基礎学力の維持を図る。今後は、第 1 学年では「図形」、第 2 学年では「関数」、第 3 学年では「関数」領域の内容を復習し、再定着させることがポイントとなる。

## 数学の授業改善策

- <第 1 学年> 目標値は上回っているが図形領域が苦手であるため、具体的な実物教材や I C T 機器の活用により、理解を深める工夫を取り入れていく。また、中学生の基礎として、学習の仕方やノートを取り方等の指導を行い、今後の中学数学の基礎を身に付ける指導を行っていく。
- <第 2 学年> 「記述」形式の正答率が低いため、自らの考え方を記述する機会を増やし、論理的に説明する能力を身に付ける指導を行う。また、「活用」内容にも対応できるよう、単元の流れや関連を意識した指導をさらに行い、様々な知識を組み合わせる活用力を身に付けさせる指導を行う。
- <第 3 学年> どの観点も目標値を大幅に上回り、学力が向上していることが分かる。今後は、学力を維持しつつ、苦手分野の克服に力を入れる。特に、「関数」領域において、式・表・グラフの関係性や数量や式の表す意味を整理して、理解の定着を図る。